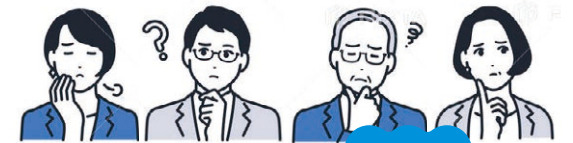


DX お悩み相談室

第1回 「何から始めれば？」のお悩み

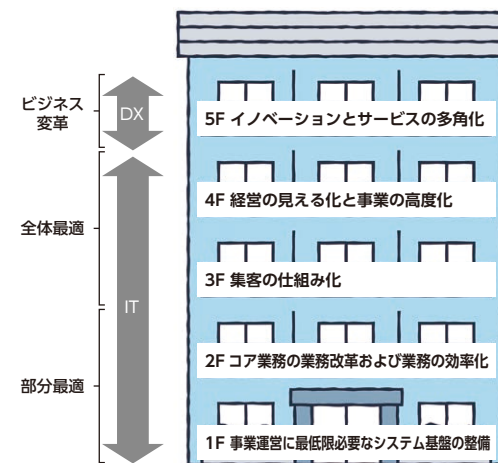
データを1カ所に集めることで
次のステップが見えてくる



Aさん(経営者)… 中小企業でもDXに取り組むべき、という話を聞くことが増え、わが社もそろそろ将来を見越して、デジタル化やDXの推進に取り組まなければと考えています。しかし、デジタルに強い社員もいないし、予算の余裕もあまりない中で、何をどこから始めるべきか悩んでいます。

柴山…「デジタル化やDX」とおっしゃいましたが、まずは、そこから整理しましょう。デジタル化(「IT化」とDXを混同している方が多いので、わかりやすく建物の形でビジュアル化してみました。

ITとDXの関係



た。起業したばかりの会社がいきなり立派なビルの上階に入居できないように、アナログ経営、つまりデジタル化されていない状態からDXはできません。まずは1階部分の構築から始めてIT化を進めていくことで、自社のあるべき姿が見えてくるものです。Aさんの会社は今、どの段階でしょうか？

Aさん… うーん、1階部分はできていると思います。会社のホームページは二応構築していて、社員はメールやExcel・Word、オンライン会議ツールなどを必要に応じて使いこなしているのです。これから2階の「コア業務の業務改革および業務の効率化」にとりかかりたい、という段階ですね。

柴山…業務の効率化や業務改革を行うために、課題と感じていることはありますか？

Aさん…DXのためにはデータの活用が重要だ。メールを自動で送るようなこともできます。そういったことを可能にするためには、A-エージェントがきちんとすべてのデータにアクセスできるように、デジタル化されたデータが1カ所に集められていることが前提になるのです。まずはデータの一元化に取り組むことで、次にやるべきこと、やりたいことが見えてくると思いますよ。

という話を聞くのですが、当社では、データがあとちこちにある印象で気になっています。それぞれの部署や担当者ごとにデータ管理をしていて、まだ紙での情報のやりとりも一部残っています。「この人にしかわからない」というような属人業務もあります。

柴山…なるほど。では、まずは「データを整理して1カ所に集める」というデータ環境整備からスタートするのがいいと思います。

Aさん…それなら、社内の今のメンバーでもできそうです。

柴山…社内データを整理・統合するためには、現在の業務フローやデータ管理方法を把握する必要があります。今までの慣例や前例踏襲で続けてきたことの見直しにもつながると思います。さらに、データを1カ所に集める環境が整備できると、次のステップの選択肢が増えます。例えば、将来的にA-エージェントの活用なども可能になります。

Aさん…A-エージェントって、最近ニュースや広告で見聞きすることが増えましたが、どんなものなのか今一つよくわからないです。生成A-とはどう違うのですか？

柴山…生成A-とA-エージェントはどちらも人工知能(AI)技術を活用していますが、機能や用途に違いがあります。生成A-は、与えられた指示に基づいて、文章や画像、音楽、コードな

どの新しいコンテンツをつくり出すことに特化したシステムです。それに対して、A-エージェントは、人間のように「考えて行動する」人工知能です。あるタスク(目標)を与えられると、その遂行のために計画を立て、必要な情報を集めたり、ツールを使ったりしながら、自律的に行動できるシステムです。

Aさん…生成A-は使ったことがあります。A-エージェントは、どんなことに使えるんですか？うちのような中小規模のメーカーでも、役に立つことはあるのでしょうか。

柴山…例えば、今はお客様からの問い合わせに対して、窓口の人が電話やメールを受けて、専門部署に確認して回答する、というようなことをされているのではないかと思います。ここにA-エージェントを導入すると、質問内容から回答を考える指示を与えることで、こちらの意図を理解し、自律的に社内のデータを閲覧してお客様に回答する、ということが可能になります。人間の社員だと、一人で社内のすべてを把握している人はまずいないと思いますが、A-エージェントは蓄積された全データを基に瞬時に最適な答えを導き出せます。

Aさん…なるほど！それは便利ですね。窓口業務の効率化につながるし、お客様をお待たせしないで済むようになるのはいいなあ。

柴山…他に、顧客リストを基に新製品の営業

回答者



柴山 治
(しばやま・りょう)
デジタル戦略プランナー/
株式会社YOHACK CEO

米国ワシントン大学 経営学修士課程(Global Executive MBA)修了。ITベンチャー、コンサルティングファーム、外資系生命保険会社等を経て、現在は株式会社YOHACK代表。企業の成長フェーズや課題に応じた、テラーメイドの支援を提供している。著書に『日本型デジタル戦略』等がある。

※DXに関するお悩みは、どんなことでもお気軽にご相談ください。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

知っトク!

中小企業に手厚い!
IT導入の補助金・助成金

生成A-やA-エージェントなどのIT導入には、一定のコストがかかります。「こんなにお金がかかるなら無理」と諦めてしまいう前にぜひ利用を検討してほしいのが、導入費用の一部を国や自治体が負担してくれる補助金や助成金制度です。

国は、IT導入のハードルを下げるために、中小企業向けに手厚い支援制度を用意しています。最大で費用の5分の4の補助が受けられるものや補助上限が最大9000万円といった規模のものもあります。また、東京都や大阪府など地方自治体で、独自のDX推進助成を拡充しているところもあります。それら国や自治体の補助金や助成金を積極的に活用することで、初期投資の負担を大幅に軽減できます。これから取り組もうとしている施策が補助金・助成金制度の対象となるのか、まずはその確認から始めてみましょう。